

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	現代社会研究科 公共圏創成専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 現代社会研究科の教育目標は、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に「政治学、経済学、法学、社会学等の社会科学と、人文・自然科学との超領域的融合により、現代社会が直面する環境問題や、少子高齢化問題、地域社会の活性化、市民活動の展開、男女共同参画社会、多文化社会の形成や国際協力、平和構築の促進等の課題解決に向けて研究し、グローバルに考え、地域で活動する人材、すなわち市民参加型の公共圏の創成に貢献する実践的人材を育成します。」と明文化されている。また学位取得後として、「幅広い学識と研究能力を有した」(博士前期課程)または「高度な専門的研究能力を有した」(博士後期課程)「職業人や研究者として、公共政策、社会福祉、環境政策、国際貢献、地域貢献、市民活動といった分野で活躍できることを目指します。」とも明文化されている。 具体的な構成としては、本研究科が提供する学びとそれによって養成する人材を社会との接続も踏まえて示し、また、大学院学則第1条の教育目標から連なるものとして本研究科の教育目標を展開する形となっている。また本研究科では専攻再編に伴い、2017年度に教育目標の改訂作業を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本研究科の教育目標は、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明示され、また「大学ウェブサイト」などにおいて広く社会に公表している。また年間数回にわたり行っている大学院説明会などの広報活動においても積極的にその伝達・理解を図っている。また、大学院構成員、特に本研究科に所属する学生に対しては、毎年度更新・編集されている「大学院要覧」や大学院履修ガイダンスやオリエンテーションを通じて、本研究科の理念・目的、教育課程、育成する人材像などについての説明を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 個別の視点での入力不要
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b> <b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b> <b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

<b>一般的なコメント(総評)</b> 研究科の目的は明確に設定され社会に発信されていると評価できます。また、2017年度には、学部改革(3専攻設置)に合わせた大学院のカリキュラム改革を行い、これにあわせて研究科の教育目標も変更された点も評価できます。
<b>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</b>

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>
-----------

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	現代社会研究科 公共圏創成専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本研究科では「京都女子大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」を定め、これに基づき別表2「学位授与の方針」を定めている。「学位授与の方針」には課程修了にあたって修得しておくべき能力を[知識・理解][技能・表現][態度・志向性][統合的能力]の観点から具体的に明示している。学位授与の方針は大学ウェブサイトや大学院要覧において広く公表している。また、本研究科では専攻再編に伴い、2017年度に「学位授与の方針」の改訂作業を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3「教育課程編成・実施の方針」を定めている。「教育課程編成・実施の方針」には「学位授与の方針」との関連性を意識した教育課程の編成内容を示している。「教育課程編成・実施の方針」については、大学ホームページや「大学院要覧」においても明示している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教育課程編成・実施の方針のもと、学士課程での学習を基礎として、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。特に、科目選択の柔軟性を確保するために、「現代社会総合研究」「現代宗教研究」「ジェンダー研究」「比較家族研究」「国際関係研究」「環境政策研究」「データ分析技法研究」などといった多くの専門科目を開講しており、講義を中心としたコースワークだけでなく、演習や研究指導、修士論文・博士論文の指導を通したリサーチワークにより、高度な知識と高度な研究手法を体得しうる教育課程を体系的に編成している。また本研究科では、学部の専攻再編再編に伴い、2017年度に開講科目の整理再編作業を行っており、2018年度から開講科目が変更した。
--

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。**

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスに授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女AL区分などを明記し、学生が主体的に学習するように設定している。またコースワークとして、講義科目、演習科目を設定しており、大学院生はこれらの履修を通じて、終了に必要な単位を修得している。また、論文作成にあたっては、個別指導を行い、修士論文中間報告会などでの発表を通して、リサーチワークによる指導を行っている。なお、大学院生にはティーチングアシスタントとして、授業の準備などを行うことで自らの学習到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 研究科では、「京都女子大学大学院学則」の「試験及び成績判定は、研究科委員会がこれを定める」という規定に基づき、学部の判定方法に準じて成績を評価し、単位を認定している。シラバスの「評価方法」の項目において、「評価項目」、「配分(%)」、「評価の観点」の小項目を設けて評価基準を明らかにし、厳格な成績評価を心掛けている。シラバスに記載された評価方法に従い、各受講者の授業への姿勢や発表内容、レポート等により評価を行っている。学位授与に関しては、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」に定められた「学位授与方針」に、学位論文審査基準を満たしていること、基本的な資質として、①研究テーマに関する高度な専門的知識を修得していること、②研究テーマに関する高度な専門的知識を活用・応用する専門的能力を修得していること、③建学の精神を深く理解し、豊かな人間性と高度な専門知識と幅広い視野を備え、生涯にわたり新しい価値を生み出していこうとする自覚を有していること、④上記①～③の高度な専門的知識や専門応用能力を統合的に活用することができ、グローバルな社会に対応できるコミュニケーション能力を身につけていること、を要件として明記している。これに基づいて、本研究科では博士前期・後期課程の院生に学位授与を手続きを行っている。本研究科の院生は、修了要件単位総数だけでなく、固有領域科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群から修了要件単位を修得しなければならない。学位授与については、学位授与予定者は指導教員らによる口頭試問を経たのち、その内容が指導教員によって大学院委員会で文書で報告、委員会全体で時間をかけて審議されたうえで判定される。また、修了までの間、研究科全教員が参加する発表会で三回程度の発表も行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし

<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b>
本研究科の教育目標に沿った学習成果の評価指標は、最終的には修士論文／博士論文の完成であるが、それに至るプロセスにおいて、研究科での公開研究発表や研究科紀要(「現代社会研究科論集」)での論文発表、関連学会での口頭発表や機関誌への論文投稿なども重要である。博士前期・後期課程院生の全員が当該年度の研究成果を発表しており、研究指導が機能していると評価できる。なお、平成29(2017)年度における後期課程院生による『現代社会研究科論集』(2018年3月発行)での学位論文要旨(博士)掲載は1編であった。なお、大学院アンケートにおいて、大学院での学びが自分のためになったか、という問いに対しては、100%が肯定的な答えを行っている。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b>
特筆すべき事項なし
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b>
特筆すべき事項なし
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b>
本研究科の教育課程およびその内容・方法についてはワーキング・グループを発足させて検討を重ね、その検討結果を研究委員会で議論し、カリキュラムの再編を行っている。また、研究科会議において、カリキュラム編成、教育方法、成績評価の観点から教育課程およびその内容・方法について検証を行っている。本研究科の大学院生から低い評価を受けていた大学院生研究室のPCについて2017年度に教育用機器備品の予算申請を行い、新PCの設置の目処が立っている。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b>
学部における三専攻の設置に伴い、カリキュラムの再編を行った。大学院生研究室の新PCを設置できる見通しが立った。
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b>
特筆すべき事項なし
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

<b>一般的なコメント(総評)</b>
学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針については、学部改革にあわせて2017年度に改訂作業を行い、「大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程の一部変更」が学内で承認されており、2019年より新しい方針が実施され、カリキュラムについても、学部カリキュラムとの整合性を図り、5つの分野を提示して科目を配置されている。院生へのアンケートでも教員による学生指導への満足度は高く、院生研究室に2018年度に新しいパソコンが設置される等、発展・改善のための施策が行われていることが評価できる。
<b>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</b>

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	現代社会研究科 公共圏創成専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表4「入学者受け入れの方針」において、求める学生像として博士前期課程では「現代社会研究科公共圏創成専攻では、独自の入学者受け入れの方針を掲げ、主体的に学ぶ意欲のある人材を求めています。公共圏創成専攻は、社会規範・文化、国際コミュニティ、地域コミュニティを研究領域として、現代社会の諸問題の解決に向けて、主体的に公共圏を創成していくための研究能力と実務能力を開発し、専門性と実践性を兼ね備えた職業人、市民活動家、地域リーダー、教育者、研究者などを育成することを目的としています。そのために、地域から、日常生活から、世界と地域の将来を女性の視点に立って見通し、現代社会における幾多の課題を克服するための分析力、地域の力を積極的に活かす組織力、そして政策提言能力の獲得を目指す意欲ある人材を、筆記試験及び面接による大学院入学者選抜試験において求めます。」博士後期課程では「現代社会研究科公共圏創成専攻では、独自の入学者受け入れの方針を掲げ、主体的に学ぶ意欲のある人材を求めています。公共圏創成専攻は、社会規範・文化、国際コミュニティ、地域コミュニティを研究領域として、現代社会の諸問題の解決に向けて、主体的に公共圏を創成していくための高度な専門的研究能力と実務能力を開発し、高度の専門性と実践性を兼ね備えた専門的職業人、市民活動家、地域リーダー、教育者、研究者などを育成することを目的としています。そのために、地域から、日常生活から、世界と地域の将来を女性の視点に立って見通し、現代社会における幾多の課題を克服するための分析力、地域の力を積極的に活かす組織力、そして政策提言能力の獲得を目指す意欲ある人材を、面接による志望動機・目的意識などの審査を中心とする大学院入学者選抜試験において求めます。」と明記しており、大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本研究科の学生募集においては、残念ながら募集人数を満たす受験者数を確保できていない状態が続いている。そのため2017年度から定員削減を伴う専攻再編の作業を行っており、2018年度に行う学生募集から新体制で行うこととなっている。入学者選抜は、語学・専門科目の筆記試験と個別面接試験により、入試委員会での判定、研究科委員会での審議・承認という手続きにより公正かつ厳格に行われている。学生の進路選択の機会を確保すべく、博士前期課程については秋季10月と春期2月の年二回入学試験を実施している。また、大学院設置基準第14条特例(昼夜開講)により、社会人等に配慮した研究指導体制を備えている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

募集人数を満たす受験者数を確保できていない状態が続いており、改善のため専攻再編を行っている。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> ※個別の視点での記入は不要です。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b> <b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b> <b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 本研究科の学生受け入れの適切については、受験者数、入学者数が定員を満たさない状態が続いていることから、ワーキング・グループを発足させて検討を重ね、その結果を研究委員会で議論し、定員を半減することを決定した。本研究科では、志願者数を今後増加に転じさせることを目的に、これまで行ってきた学内説明会と院生発表会を連動させ、大学院生と学部生の接点を増やすなどの取り組みを行っている。また、ワーキング・グループでは「現代社会研究科公共圏創成専攻博士前期課程の教育課程概念図と想定進路」の作成も行っており、今後活用の予定である。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b> <b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> 受験者数、入学者数が定員を満たさない状態が続いており、2018年から定員を削減し専攻を再編することが決まった。
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b> <b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

<b>一般的なコメント(総評)</b> 入学者受入れの方針については、学部改革と連動した大学院カリキュラムの改訂を行った結果、2019年度から新しい内容となり、研究科ワーキング・グループが2017年度に作成した「現代社会研究科公共圏創成専攻博士前期課程の教育課程概念図と想定進路」は2018年度の大学院案内にも掲載され、活用される等、問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できる。
<b>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</b>

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>
-----------

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	現代社会研究科 公共圏創成専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学として求める教員像は「京都女子大学教員資格審査規程」「京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規」等に明記されており、また「大学の求める教員像および教員組織の編制方針」として大学ホームページでも公表されている。 本研究科では、教育内容および研究対象領域を踏まえて教員像を明確にし、教員組織は教育課程および研究領域を踏まえてその編制方針を定め、教員人事(採用・昇進)に当たっている。本研究科の教員資格審査では、先の全学レベルの規則に加えて、平成20(2008)年1月「現代社会研究科担当教員資格審査(運用の申し合わせ)」を制定し、博士前期・後期課程の指導教員、指導補助教員、授業担当教員においては一段と厳しい資格要件を定めている。具体的には、採用・昇進の際に、研究科独自の「資格審査(運用の申し合わせ)」に基づいて厳格に審査し、研究科会議で策定した公募採用人事案を、全学の人事委員会に提案し、審議・了承を得ている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 教員組織の編成方針について、対外的に明示できていない。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本研究科の2017年度における博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員数(博士前期課程)は19名(内研究指導教員14名)、年齢構成は60代3名、50代7名、40代8名、30代1名で平均年齢52.2歳で、教授15名、准教授4名、男女比11/8という構成である。また授業担当教員は7人となっている。博士後期課程はこのうち研究指導教員が10名、補助教員が1名、平均年齢は55.8歳である。研究科の教育方針を踏まえ、2018年度までは「社会規範・文化、国際コミュニティ、地域コミュニティ」の3つの研究領域で組織していたが、2019年度からはカリキュラム変更に伴い、「人間・文化、家族・地域社会、国際・政治・行政、経済・経営、情報・環境」の5つの分野に再編し、教員組織もそれぞれの研究分野に併せて再配置することとした。これにより、担当科目と各研究分野がより分かりやすく整合するものとなっている。教員組織とそれぞれの研究分野については、大学ウェブサイト公表されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。



**③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b>
教員人事に当たっては、「京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規」に基準が明示されており、これらに則って審査が行われている。その際は、研究領域のバランス、専門分野・担当科目との関連などを、研究科所属の全教員により慎重に審議し、当該教員の研究内容を審査し判断しており、また、教育課程や研究領域との関連から見て教員組織は適切である。カリキュラムとの関連については、大学院のカリキュラム・ポリシーに基づき体系的に配置した教育課程の下、各教員の研究領域と担当科目との間に密接な関連がある。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b>
本研究科では、教員の教育面での資質向上のために、全学および学科独自で実施されるFD研修への参加を積極的に奨励している。教育活動(授業の分かりやすさ、履修指導)に対する学生の満足度については、「大学院生アンケート調査」で調べ、毎年度研究科委員会(研究科会議)で検証している。「平成28(2016)年度院生アンケート調査」によると、「授業内容の満足度」「担当教員の熱意」「履修指導の適切性」「研究指導の適切性」のすべての項目で、100%の満足度が挙げられている。また、教員の研究活動については、教員業績データベースへの入力を研究科委員会等で促しており、教員および院生の論文等の発表の媒体として『現代社会研究科論集』を毎年刊行している。平成28(2016)年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長・学長による評価を受けて改善活動等に取り組んでいる。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b>
本研究科の教員組織の適切性について、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針に照らして必要な専門分野、職位構成、年齢構成のバランス等の観点からの検証は毎年行っている。2017年度には、2名の教員が博士前期課程授業担当教員から指導補助教員に、1名の教員が博士後期課程授業担当教員から指導教員に、1名の教員が新たに博士後期課程指導教員となった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

#### 内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)
2017年度のカリキュラム改訂作業により、5つの研究分野に教員を配置し、学部教育と連動した、より専門的な指導を行えるような体制を作る等、目標が具体的に設定され、達成のための施策が行われていることが評価できる。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)
「研究科の教育方針を踏まえ、人間・文化、家族・地域社会、国際・政治・行政、経済・経営、情報・環境の5つの分野について、それぞれを研究分野とする教員を配置しており、担当科目と各研究分野が整合するものとなっている」という部分については、2019年度のカリキュラムから実施されるという文言を付け加えて頂きたい。

#### 内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見
当該箇所について、2018年度までのカリキュラムと2019年度以降のカリキュラムの相違について明確に区別できる記述に修正した。